

次号予告

特集 乱数とその応用

乱数の原器としての円周率

……………三好和徳(工学院大学)

脱確率論としての乱数……………高橋磐郎(筑波大学)

乱数生成に関する最近の話題

……………手塚 集(日本IBM)

準モンテカルロ法……………伏見正則(東京大学)

暗号用乱数列……………中村勝洋, 田中和恵(日本電気)

論文・研究レポート

品質評価モデルにもとづく初期流動管理図

……………山田 茂, 他(広島大学)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長	若山 邦紘	法政大学
副委員長	浦谷 規	法政大学
委員	相沢りえ子	㈱構造計画研究所
	上野 哲郎	和光大学
	大村 雄史	住友商事㈱
	片山 隆仁	防衛庁
	川合 庸一	川合産業研究事務所
	木嶋 恭一	東京工業大学
	小池 将貴	筑波技術短期大学
	逆瀬川浩孝	筑波大学
	坂本 善博	富士通㈱
	新村 秀一	住商コンピュータサービス㈱
	町原 文男	日本電信電話㈱
	宮田 雅智	青山学院女子短期大学
	吉田 敏弘	ソロモン・ブラザーズ・アジア証券会社

編集後記●最近の計算機環境の発展は、パソコン並みの価格で数十MIPSのワークステーションが買えたり、ネットワークが秒速ギガ単位で可能になるなど「秒進分歩」といえる状況です。このような高速なネットワークが2015年までに導入され、その時どのような需要が発生しうるかを考える検討会までも開かれているときかれます●今回の特集は、「集団合意形成」にこの技術を応用しようとするチャレンジングなテーマです。一般にわが国の企業経営は「根回し」など合意形成が大変うまく行なわれているといわれています。しかし一方、都市再開発などの公共施設の建設に合意形成が成功するならば、交通渋滞や劣悪な居住環境はもう少しましなものになるのではないのでしょうか。また高度に情報化されているはずの一流金融機関が、単純な偽の証書で巨額の損失を被った最近の金融不祥事は、情報化社会の問題点があらためて問われることになったのでしょうか●コンピュータネット

ワークの発展により、電子メールやNEWSが世界中に高速に伝播する利便性を、計算機の専門の人ばかりでなく一般の研究者も十分享受できるようになってきています。しかし、あまりにも多くの情報が手に入り、その内容の真偽が不明では混乱するばかりです。このような問題に対する解決案が今回の特集では紹介されています。Information Lensなどのグループウェアと呼ばれるプログラムで情報の取捨選択が行なわれるそうです●計算機および通信技術の急速な発展でわれわれに入力される情報はいちじるしく増加しています。情報の整理を可能とする理論とそれをインプリメンテーションする情報処理技術があいまって発達することによって素晴らしい技術が社会に受け入れられるようになるのでしょうか。(浦谷 規)

本誌に記載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成3年11月号 第36巻 第11号 通巻371号

代表者 岡 久雄

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113

編集人 若山 邦紘

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体822円, 郵送料含)年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337)、日経弘報社(3563-2241)へ